香は今世伽羅と云ふ物なり、藥に用るには、沈香は氣を降し、奇南香は氣を升すといふ差別あり、又薫物は種々の香物を調合したるを云、又中古以來香と云あり、香は奇南香の事也、此一種のみ香と云て賞翫する事は、佐々木入道佐渡判官道譽より始ると云、其より後、香聞香合せの勝負など云事あり、沈香奇南香ともに占城國より出る、西域の地方也、

〔春湊浪話下〕伽羅

合薫物といふものは、○略中源氏物語にも多く見へ、六種の合薫物も聞えて久敷世に翫し事なり、又沈水香とも栂檀香とも日本紀に見え、牛頭栂檀と源氏に書て、今は伽羅といふものゝ一種の木を燒て、其香を翫ぶ事は昔には聞えざりき、本名奇南香といふか、是を出す處六國あり、伽羅とは其六ッの中の一國の名なり、今はなべての名に呼、是も鎌倉北條執權の末より起りしことにや、佐々木入道道譽是を好みて名ある香木ども多く家藏ありし、其名ども書たるものは今も世に殘れり、

〔六國五味傳〕六國列香辨

伽羅　羅國　眞南賀　眞南蠻　寸門陀羅　佐曾羅

右是ヲ六國ノ列トイフ、六品何レモ沈水香也、伽羅ハ六種ノ内上品ノモノ也、シカレドモ伽羅、眞南蠻ニヲトリ、寸門多羅ノ伽羅ニマガフノ聞アリ、外モ又カクノゴトシ、其品々ヲワカチ知ルコト師説ヲ受ベシ、一種聞ヲ修練スベシ、其功ニ隨テ丈夫ニ是ヲ定ムベシ、六種ノ品ヲワカチ知ルコト、大略左ニアラハスヲ以テ知ルベシ、其分如左、

伽羅　其サマヤサシク、位有テ苦ミヲ主ル、上品トス、自然トタヲヤカニシテ優美ナリ、其品タトヘバ宮人ノゴトシ、

羅國　自然ニ匂ヒスルドナリ、白檀ノゴトキ匂ヒ有テ、苦ミヲ主ル、タトヘバ武士ノゴトシ、